

あみ当事者アンケート報告書

～国連障害者権利委員会による対日審査結果を受けて～

アンケート調査の契機・目的

①障害者権利条約 対日調査及び勧告を受けて

- ・あみとしてどのように受け止め、共有し、内外へ意見発信をするべきか？
根拠を探る。

②あみがこれまで行ってきた活動の検証

- ・これまで行ってきた様々な活動について当事者にその真価を問い、
検証の機会とする。

③当事者・支援者への情報の周知

- ・アンケートに「国連権利委員会の対日調査と勧告」や「強制入院・強制治療
制度」等について説明文を掲載。 当事者や支援者等への情報周知の機会に。

⇒ 3つの項目に分けてアンケート調査を実施

1. 働くことや居場所について
2. 居住(住まいと暮らし)について
3. 精神科医療について

調査方法・基本情報

調査方法

- ・ 調査方法 郵送配布・郵送回収
- ・ 調査期間 2024年2月1日～3月20日
- ・ 調査対象 当会会員事業所の利用者、OB,OG、ピアスタッフ
- ・ 回収数 配布事業所261事業所に対し299名

基本情報

- ・ 男女比 男性162人、女性132人、その他及び無回答が4人
- ・ 年代 10代2人、20～30代57人、40～50代188人、60代以上41人
- ・ 利用の多いサービス
 - 日中サービス：就労継続支援B型168人、地域活動支援センター120人
 - 居住サービス：グループホーム55人
 - 在宅サービス：訪問看護75人、ヘルパー47人

国連障害者権利委員会からの勧告内容

精神科医療について

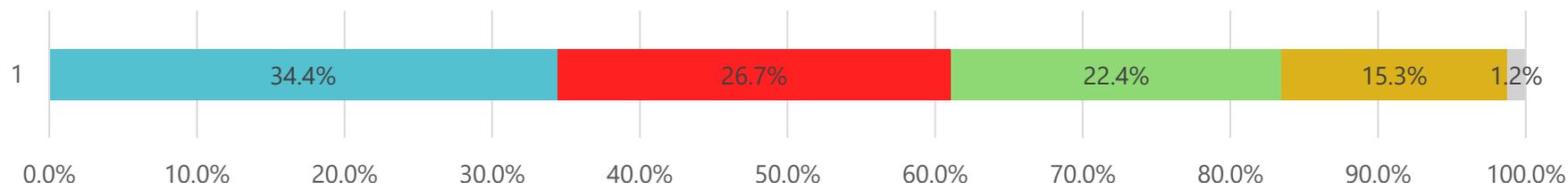
- ・ 強制入院（医療保護入院/措置入院/心神喪失者医療観察法等）を廃止すべき
- ・ 強制治療（身体拘束/隔離等）を廃止すべき
- ・ 精神科病院での虐待を「障害者虐待防止法」の対象とすべき
- ・ 無期限の入院（長期入院）を終わらせるべき
- ・ 精神科医療を他の一般医療と同等の医療にすべき
- ・ 精神科病院に対する「独立した監視機構」を設置すべき

以上の6つの勧告内容について説明をした上、以下の質問をした。

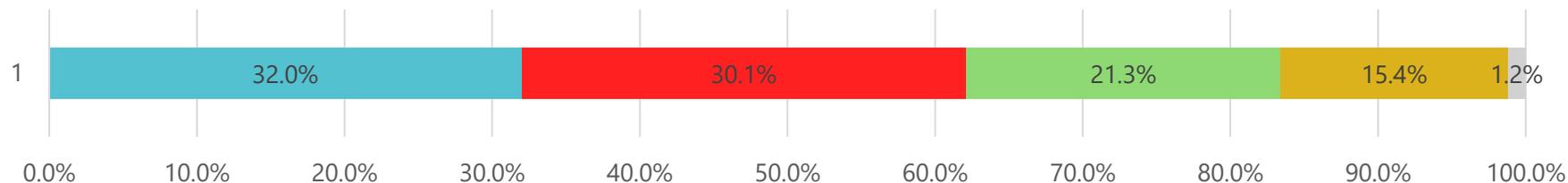
アンケート結果：本人に同意のない入院について

Q21.本人の同意のない入院（医療保護入院、措置入院、心神喪失者医療観察法入院）を廃止することについて、どう思いますか？

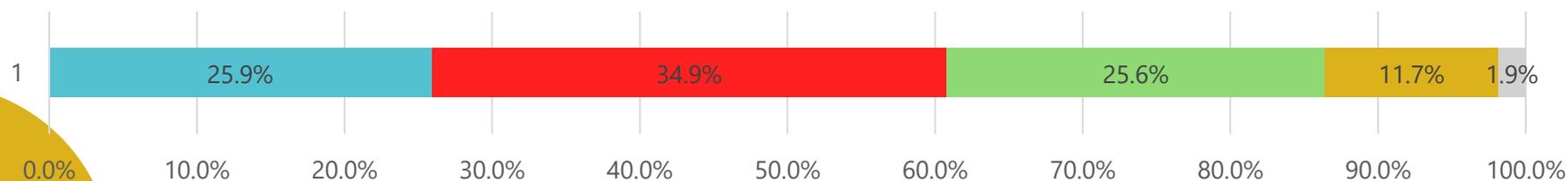
医療保護入院



措置入院



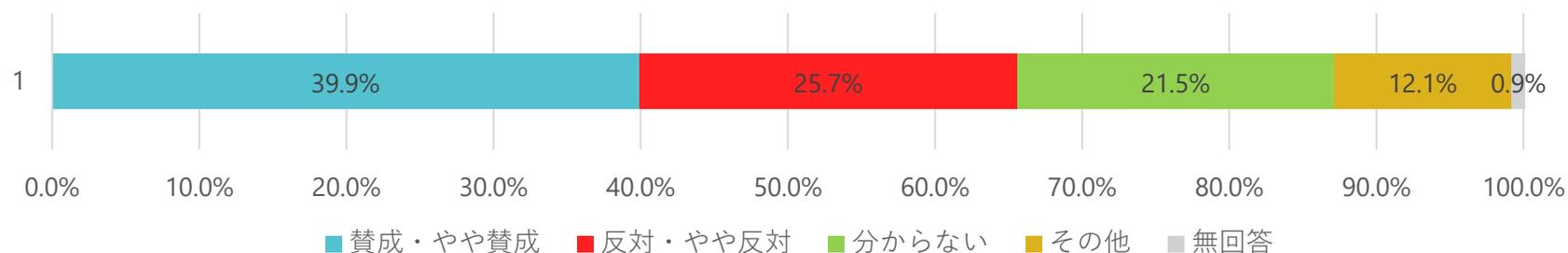
心神喪失者医療観察法入院



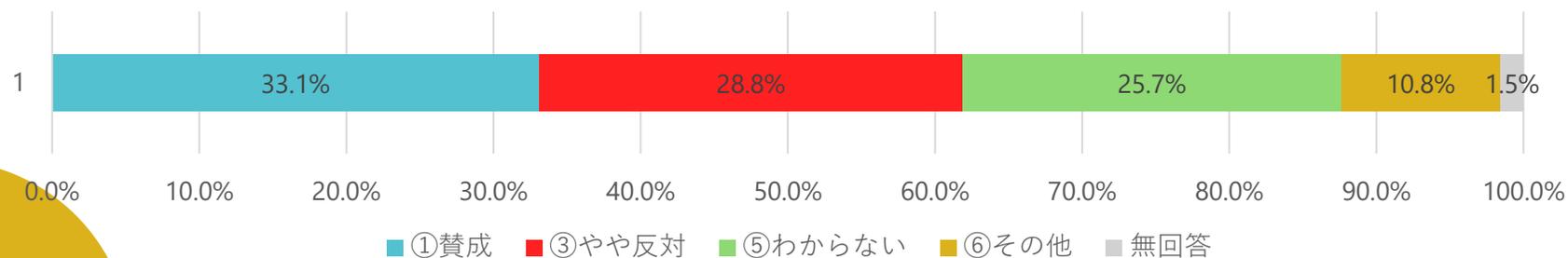
■ 賛成・やや賛成 ■ 反対・やや反対 ■ 分からない ■ その他 ■ 無回答

アンケート結果：身体拘束について

Q22.本人の同意のない治療・対応（身体拘束/隔離収容/家族や友人との通信の制限等）を廃止することについて、どう思いますか？



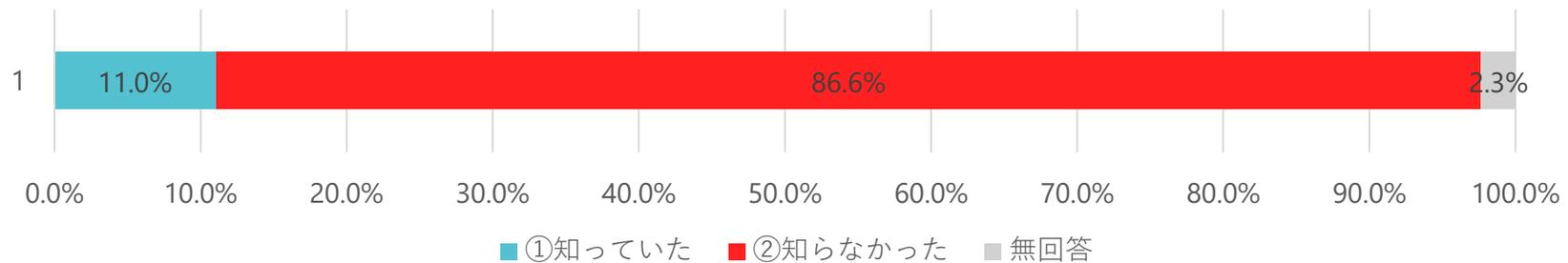
Q23.本人の同意のない入院（強制入院）と治療・対応（身体拘束/隔離拘束/家族や友人との通信の制限等）を認める「精神保健福祉法」を廃止することについてどう思いますか？



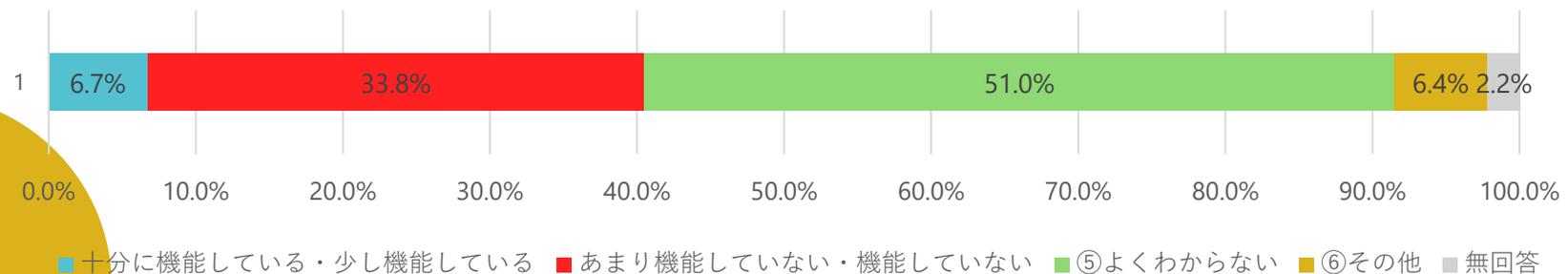
アンケート結果：精神医療審査会について

Q25.現在、精神科病院に入院している人が「退院したい」「身体拘束から解いてほしい」などの助けを求める機関として、都道府県に「精神医療審査会」が設置されています。しかし、審査する委員の多くが医療関係者であることや、審査する件数が多すぎることなどから、公平で十分な審査ができず、退院請求が通ることはわずか2.1%（平成26年）です。

－ 1：「精神医療審査会」の存在を知っていましたか？



－ 2：「精神医療審査会」は十分に機能していると思いますか？



「その他」を選んだ方の自由記載より抜粋（身体拘束について）

「私も意味の解らない理由で隔離されたことがある。人間とは違う動物のようなあつかいをうけた。ショックだった。身体拘束や隔離をしなくてもいいはずだと思う。」

「身体拘束はなかったが、保護室には入ったことがあるが、その丸見えのトイレを使うことに耐えられず、ある医師が私を信じて普通のトイレの使用を許可してくれたことがあった。急性期の時でも記憶は残っている。強制的な治療は継続的な治療につながらないと思う。」

「現状の精神科医療は投薬、身体拘束などを通して『人間の思考と人格や尊厳を叩き潰しておとなしくさせるもの』個人的には精神科医療には何も望まない。これ以上関わりたくない。」

「無理やりの拘束はいらない。」

「それは広い意味で虐待であるのではないか？」

「その他」を選んだ方の自由記載より抜粋（身体拘束について）

「患者の身の安全、精神状態の悪化を防ぐ観点からそのような治療対応は仕方がないことと思う。」

「隔離入院で、医師や看護婦に、無視をされ、何度さげびよんでも、室には来てもらえず、便器の水を飲みました。」

「適切な治療は、人権をないがしろにするのは一切当てはまらない世の中であってほしいと思う」

「本人の同意のない入院自体は必要かもしれないが、一度入院させたら終りでなく、他の精神科医や弁護士が入院の必要性を定期的にチェックすることが必要であると思う。」

「本人の同意のない治療・対応は人権侵害以外の何物でもないから。たとえ悪化した状態であっても本人同意を得る努力はすべきだと思う。」

「本人の同意の前に、その本人が意思表示ができるものだろうか？医師などが同調圧力などで同意を強制したりしないのだろうか？」

「その他」を選んだ方の自由記載より抜粋（身体拘束について）

「ちゃんと話を聞いてくれたら、時間を取って、理解するまで待ってもらえたら入院してもいい。」

「患者の身の安全、精神状態の悪化を防ぐ観点からそのような治療対応は仕方のないことと思う。」

「周囲が必要と判断したのならやむを得ないと思う。」

「本人が信頼できる。安心できる、主治医がするなら、後で、納得できるかもしれない。」

「本人にも心があるし・・・でもその時の状況や環境、周囲への影響であるし・・・分かりません。」

「症状によっては意思疎通が全くできない事もあるので一概に廃止した方がいいとは思わない。」

アンケート結果を受けての所感(強制入院・治療)

- ・当初、想定していた「当事者のほとんどが強制入院の廃止に賛成」という結果にはならなかった。
- ・強制力や治安の色合いの濃い入院形態になるほど、「廃止に反対・やや反対」の割合が高くなる。
- ・身体拘束を含む同意のない治療の廃止について「賛成・やや賛成」の方が全体では39.9%。そのうち、強制入院の経験のある群では51.4%、任意入院のみの群は40.6%と10%以上の差があった。
- ・家族が困らない為に強制入院は必要という意見もあった。急性期に当事者だけでなく家族を支える仕組みが必要とされている。
- ・「分からない」と答えた人の割合がどの質問に関しても20%を超えた。多くの当事者に必要な情報が届いていないこと、一緒に考える伴走者がいないことなどが伺える。

アンケート結果を受けての所感(精神医療審査会)

- ・精神科病院入院中の人の人権を守る最後の砦のはずの「精神医療審査会」について、知らなかったと答えた人は86.6%で、強制入院経験者においても85.9%が知らなかったと回答。入院時の混乱した状況での説明のみでなく、当事者に権利行使の方法を伝える工夫が求められている。

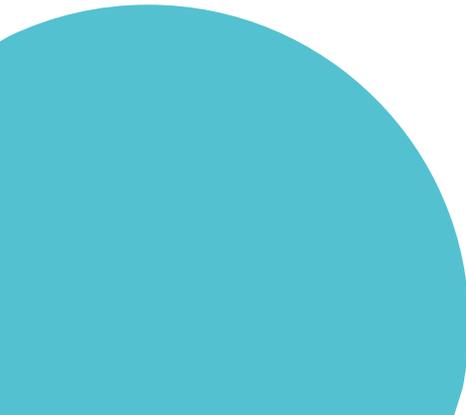
アンケート結果を受けての所感(精神科医療)

- ・あなたの望む精神科医療についての自由記載の回答者の多さと内容に「今は当事者の望む医療ではない=変わってほしいと考えている」という当事者の思いが浮かび上がった。
- ・自由記載の中で、「人権が尊重される医療」「人として尊厳を守ってくれる医療」という回答も多く見られた。「精神障害者である前に、一人の人間として扱われることが保障される医療」と回答した当事者の声をどのように受けとめていくか、宿題である。



ご清聴ありがとうございました。

詳細については配布いたしました報告書をご覧ください。



特定非営利活動法人
全国精神障害者地域生活支援協議会